

ASAHI RUBBER REPORT 2012

第10次三カ年中期経営計画を軸に、 国内・海外の事業展開を図ってまいります。

株主の皆様へ



代表取締役社長 横山林吉

近年の経済環境として、リーマンショック以降、中小企業に対する要求が変化してきました。高い付加価値や品質、性能が良いことは理解していただけるものの、コスト面は譲っていただけなくなったということです。

また、これからのグローバル展開では、品質、性能が良いのは当たり前で、コストをどれだけ下げることが勝負になりますので、これに対応していかなければなりません。

当社は、当期から中期経営計画をスタートさせました。年度前半は震災の影響で厳しいスタートとなったものの、収益性の高い医療向け製品の受注が好調であったことや、年度後半には自動車向け製品の受注が回復してきたことにより、増収増益を確保することができました。

第43期の連結売上計画は52億円で中期経営計画の目標の62億円まではまだ大きな開きがあります。業績見通しは実現可能な範囲で開示していますので、さらに拡大できるように進めていきます。利益ベースでは計画を上回って伸ばしていますので、中期経営計画達成に向けて取り組んでいきたいと思っています。

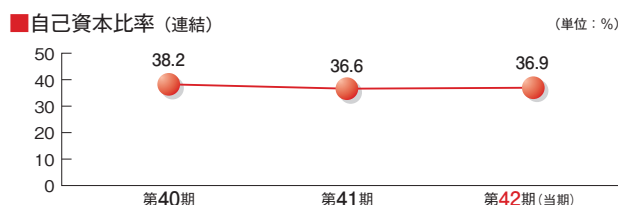
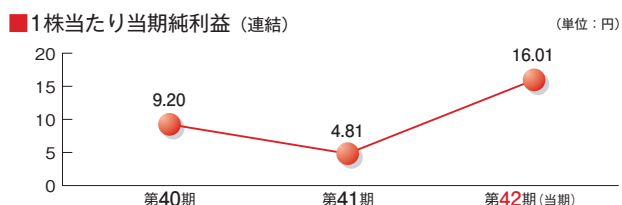
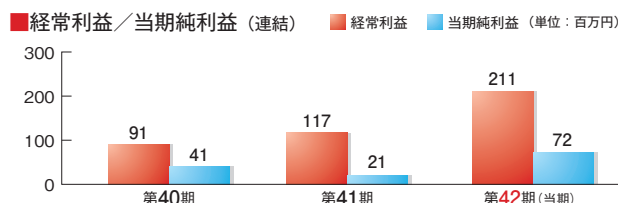
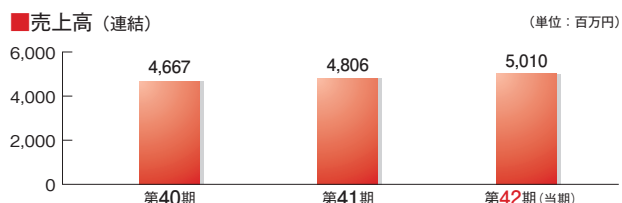
当社の工場がある福島県は、昨年の震災以来、大きな苦難に直面しています。

放射線の問題は数十年という長期的な視野で対応していかなければなりません。そうした状況で、私たちができることは、まず雇用をしっかりと守るということ。これが企業が取り組むべき第一の使命だと考えています。そして、福島から世界に製品を展開していきたい。海外に製品展開し、しっかりとした収益を日本に持ってきて雇用を守り、確保していきたい。地元と密着して、世界に負けない本当に良いものを安く、他社にまねのできないものをつくるということが経営の意思です。私たち企業人、民間人ができることはそういうことしかないのでと思います。

経営環境は大きく、また急速に変わっています。国内での生き残り海外展開のバランスを取りながら事業拡大を図っていきませんが、国内の空洞化を避けるためにも企業が頑張らなければなりません。福島発の技術力を磨き、ここで踏ん張るという気概を持って取り組んでいきたいと考えています。

連結財務ハイライト

▶ 震災とタイの洪水の影響があったものの想定より早い復旧と医療製品の受注が好調で増収増益



“第10次三カ年中期経営計画” を軸に継続的な成長を実現します。

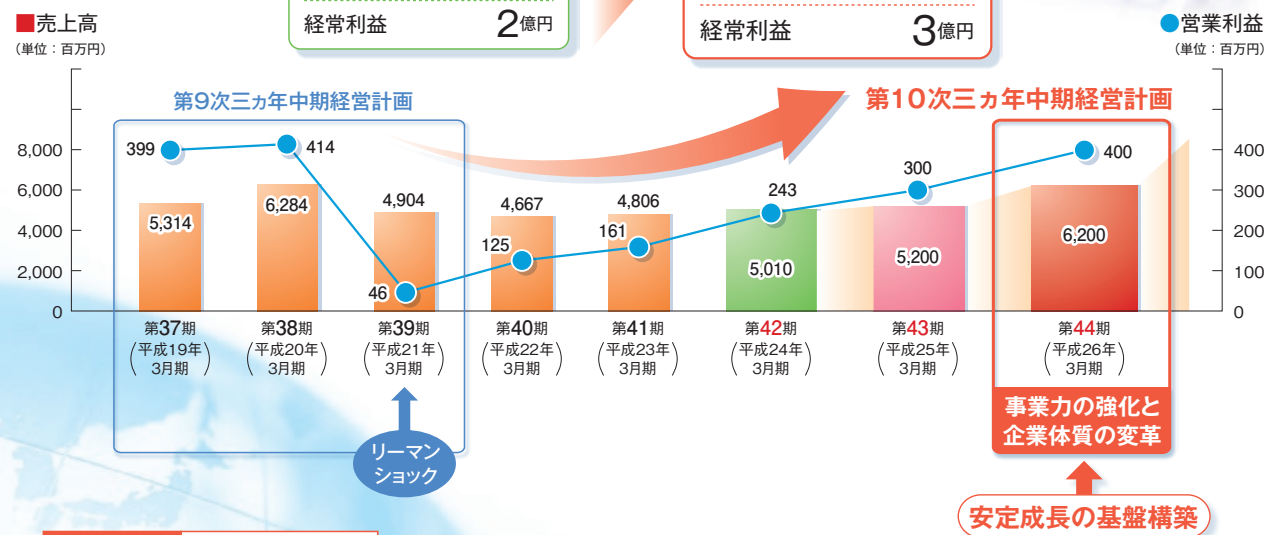
中期経営計画

Point

リーマンショック以降、順調に営業利益が回復

第42期実績(連結)	
売上高	50億円
営業利益	2億円
経常利益	2億円

第44期目標(連結)	
売上高	62億円
営業利益	4億円
経常利益	3億円



事業戦略 重点事業戦略

●事業別売上高

照明関連事業		医療関連事業		機能製品関連事業	
第42期 売上高	21.9億円(実績)	第42期 売上高	11.9億円(実績)	第42期 売上高	16.2億円(実績)
第44期 売上高	27億円(目標)	第44期 売上高	12億円(目標)	第44期 売上高	23億円(目標)
●蛍光体シートやレジスト材などLED周辺部材の販売強化。 ●自動車向け受注を確保しながら照明向けの受注獲得を目指す。		●表面改質技術と素材変性技術で、プレフィルドシリンジ用ガスケットの受注増などにより目標の前倒し達成へ。		●アジアでの価格競争に対し、技術力を前面に出して、自動車、情報通信分野で成長を目指す。	

■中期経営計画と進捗

中期経営計画の基本戦略は、事業、企業体質そして人材の3つについて、バランスの取れた成長をするということです。事業と会社のしくみを含めた企業体質と個人個人のスキル・能力の3つのバランスを取ることで、企業として継続的な成長をしていくことができると考えています。事業戦略は、重点事業を照明関連、医療関連、機能製品関連の3つを中心とし、ゆるぎない事業基盤を構築する、としています。

そして、さらにこれらの事業を重点戦略製品と育成戦略製品の2つに分類して、それぞれ違う戦略で取り組んでいきます。

中期経営計画の初年度である第42期が終了し、2年目の第43期の業績計画を策定いたしました。第43期は売上げの伸びが小さいものの、利益ベースではリーマンショック以降順調に回復しつつあります。新製品の量産までの間、収益を支える既存製品の生産性向上により、利益率も上昇しています。

また、第43期は販売戦略として国内・海外で10件の展示会に出展します。当社の製品と技術を専門性のある展示会に出展することで、顧客開拓と同時に、現在の実力を評価いただき、業界のトレンドをつかみ、今後の技術開発の方向性を明確にすることで、新製品をタイムリーに市場投入していきます。

海外展開

2011年中国国際工業博覧会に出展

昨年11月1日から5日まで上海で開催された、2011年中国国際工業博覧会に出展しました。

お客様のoffice M様と共同で、2,700K~1,000Kで5種の色温度をASA COLOR LEDで出し、office M様のLEDランプを使ったシャンデリア照明と、面発光パネルの出展を行いました。LED照明の他社のブースは白色の照明が主流でしたが、当社のブースはLED単体では出しにくいオレンジ系の発光色をアピールしました。



2011年中国国際工業博覧会の様子

海外販売体制強化のため 上海に販売子会社を設立

今年1月、上海に販売子会社「朝日科技(上海)有限公司」を設立しました。

照明関連事業分野のお客様は、中国を含む東南アジア、EUへとその市場を拡大しているため、その市場と地域に合った製品開発を進め、製品及びサービスを提供し収益拡大を目指します。当社製品の魅力を伝えてお客様に距離感を感じさせないよう、日本と中国東莞の生産工場と連携して、グループ全体の収益力と技術力の向上に努めます。また、販売活動だけでなく製品開発・設計、アフターサービスまでカバーできる人材及び機能を有した技術提案型の営業力を持った販売子会社を目指します。

朝日科技(上海)有限公司

●設立した販売子会社の概要

会社名	朝日科技(上海)有限公司
資本金	5,000万円(朝日ラバー100%出資)
設立	平成24年1月18日
代表者	渡辺陽一郎 (朝日ラバー取締役営業担当)
所在地	中国上海市

製品開発体制

研究子会社名を株式会社朝日FR研究所に変更

【抱負】

このたび、株式会社朝日FR研究所の代表取締役社長に選任されました高木です。

朝日ラバーグループのR&D拠点である研究所を経営するにあたり、あらためて身の引き締まる思いであり、継続して人間を尊重し、社会に貢献するという創業の理念を実現していきたいと思ひます。

また当社は、これを機に、これまで陰になり日向になり朝日ラバーを支援し続けていることを明確にし、より朝日ラバーとの関係をわかりやすく表現するため、4月1日付をもって社名を株式会社フラインラバー研究所から、株式会社朝日FR研究所に変更することとなりました。

当社は、設立以来、朝日ラバーの主要な事業を生み出してきました。今後も、事業化を睨んだ要素技術の深掘と経営貢献度の高いニーズの具体化を推進、そして高い志を持つ人材がはぐくまれる素敵な組織運営の継続をしてまいります。

新しい時代を、社員と親会社である朝日ラバー、そしてグループ全体で作り上げていきたいと思ひます。3.11後の、被災県から発信する当社グループの底力を、国内外に見ていただけるよう頑張ります。



代表取締役社長
高木 和久

職場での取り組み

くるみんマークの取得

当社は昨年11月、厚生労働省・埼玉労働局から、次世代育成支援対策推進法に基づき、従業員の子育て支援を積極的に推進している企業として認定を受け、次世代認定マーク「くるみん」を取得しました。「くるみん」は、企業が子育て支援に関する行動計画を策定・届出し、その取り組みが一定の基準を満たしていると認定された企業に付与されるもので、認定を受けた企業はこのマークを商品やサービス、広告等に使用することができます。

当社では、出産・育児にかかわる諸制度の整備や啓発活動を行っていましたが、平成22年4月から平成23年9月までの期間で出産した社員の育児休業の取得率が91%に達しました。また、男

性社員も子の看護休暇を取得するなど、子育て支援の成果がはじめています。また、すべての従業員を対象に、有給休暇を半日単位で取得できる制度を平成22年4月から導入し、平成23年10月からは子の看護休暇も半日単位で取得できるように制度を整備していることも評価され、これら活動の結果が今回の認定となりました。

引き続き、子育て支援やその他仕事と家庭の両立を支援する「ワークライフバランス」を積極的に推進してまいります。

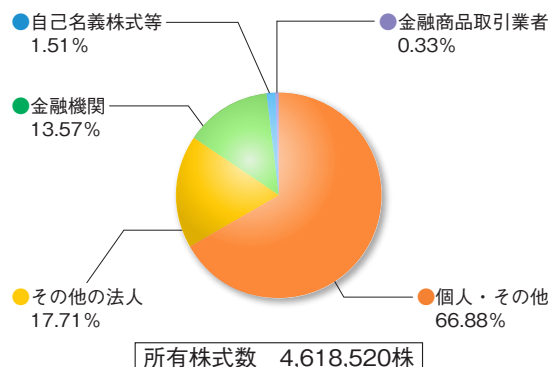


- 発行可能株式総数 11,500,000株
- 発行済株式の総数 4,618,520株
- 株 主 数 1,113名
- 大 株 主 (上位10名)

株 主 名	持株数	持株比率
有限会社伊藤コーポレーション	715,500株	15.73%
伊 藤 潤	227,000	4.99
朝 日 ラ ヶ ー 共 栄 持 株 会	226,500	4.98
伊 藤 巖	222,528	4.89
朝 日 ラ ヶ ー 従 業 員 持 株 会	176,028	3.87
株 式 会 社 南 日 本 銀 行	175,500	3.86
室 井 利 子	151,348	3.33
株 式 会 社 武 蔵 野 銀 行	113,000	2.48
横 山 林 吉	103,460	2.27
株 式 会 社 東 邦 銀 行	97,400	2.14

(注) 持株比率は自己株式(69,600株)を控除して計算しております。

●所有者別株式の分布状況



- 商 号 株式会社朝日ラバー (ASAHI RUBBER INC.)
<http://www.asahi-rubber.co.jp/>
- 所 在 地 埼玉県さいたま市大宮区土手町二丁目7番2
- 設 立 昭和51年6月(創業 昭和45年5月)
- 資 本 金 5億1,687万円
- 証券コード 5162
- 正社員数 244名
- 主な業務内容 工業用ゴム製品の製造・販売
- 主な事業所
本 社 埼玉県さいたま市大宮区土手町二丁目7番2
大阪営業所 大阪府大阪市城東区蒲生一丁目12番10号 京橋アドンス21 205号
福島工場 福島県西白河郡泉崎村大字泉崎字坊頭窪1番地
第二福島工場 福島県西白河郡泉崎村大字泉崎字山崎山1番地3
白河工場 福島県白河市萱根月ノ入1番地21
- 関係会社 ARI INTERNATIONAL CORPORATION
※株式会社ファインラバー研究所
朝日橡膠(香港)有限公司
東莞朝日精密橡膠制品有限公司
朝日科技(上海)有限公司
※平成24年4月1日より株式会社朝日FR研究所に名称変更しております。

- 役 員 取締役会長 伊 藤 巖
(平成24年6月26日現在)
代表取締役社長 横 山 林 吉
代表取締役副社長 伊 藤 潤
常 務 取 締 役 中 沢 章 二
取 締 役 亀 本 順 志
取 締 役 渡 辺 陽 一 郎
常勤監査役(社外) 鈴 木 敦
監 査 役(社外) 塙 雅 夫
監 査 役(社外) 野 村 智 夫

●株主メモ

事 業 年 度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定 時 株 主 総 会	毎年6月に開催
株 主 名 簿 管 理 人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
上 場 証 券 取 引 所	大阪証券取引所(JASDAQ市場)
公 告 の 方 法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.asahi-rubber.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、単元未満株式買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

もっと 朝日ラバーを知る



積極的な情報開示に努めてまいりますので、
ぜひご覧ください。

<http://www.asahi-rubber.co.jp/>



Twitterで

会社の最新情報をお届けします。
ぜひフォローしてください。

<http://twitter.com/AsahiRubber>